

くしまの飲食店応援！ 武田類の飲食店放浪記

新規店舗訪問編

profile
武田類（本名：武田光祥）
食と酒に情熱を注ぐ総務課職員。
先日、都井岬の馬追いに参加しました。都井岬の壮大な景色に心が洗われました。



profile
脇元正広
市内の商工業を盛り上げたい商工観光ポータル推進課職員。
今こうして対面で飲み方などができるようになったことに、改めて幸せを感じます。

こんばんは、武田類です。10月になっても厳しい暑さが続いていたことから、同志の脇元さんを誘って、最近オープンした飲食店にお邪魔してきました。

本日ご紹介する飲食店は「音」さんです。

音音さんは、水や飼料に徹底的にこだわって和牛生産を行っている牧場から仕入れた上質な肉を提供する焼肉店です。店内のテーブル席は36席、座敷席は12席、店外のテラス席は30席となっており、店内は完全個室となっていることから、周囲の目を気にすることなくゆっくりと焼肉を楽しむことができるお店です。

店主の岩下大次さんは、北方地区出身。大学卒業後、県外で会社員として働いた後帰郷し、12年前に市内でバーを開業。その後2店舗に増やし、今回、市内3店舗目である音音さんを今年8月にオープンさせました。



店主の岩下さん（左から2番目）とスタッフの皆さん

ここでは店主おススメの逸品を焼いていきましょう。
まずは、ネギ塩牛タン（税込み1,980円）。



この艶やかな輝き、美しいです。さっと火を通してから、店主が各地を食べ歩いて研究した自家製のネギ塩だれを乗せていただきます。適度な歯ごたえがあり、ネギ塩だれとのベストマッチが楽しめます。

次は、三角バラ（税込み1,309円）。脇元さん食レポート。

こちらはバラ肉でも希少部位というところですが、キレイなサシと、この肉厚！見た目も美しいですね。柔らかい肉質に上質な脂のうま味がたまりません！脂もさっぱりとしているので、脂が苦手な人でもいけちゃうと思います。



最後は、特上ヒレ（税込み2,739円）。これ、びっくりしました。

口に入れてみると、見た目とは裏腹に柔らかくとろける食感です。



肉質が良く、脂身も少ないのでどんどん食べたくなる逸品です。我々もとろけています。



そして、これからの季節、テラス席ではこのように外の風に当たりながら優雅に焼肉を楽しむこともできます。せっかくなのでちょっとお邪魔しました。テラス席で飲むワインはまた格別です。



さあ、こだわりの肉とお酒で充電完了です。また明日からも頑張れます。本日も大変満足でした。ごちそうさまでした。



音 ☎55-5080
・住所＝串間市東町5-4
・営業時間＝18:00～23:00 (L.O.22:30)
・定休日＝なし



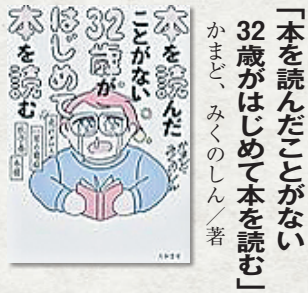
音音公式LINEアカウント

図書館に行こう Books

- 串間市立図書館 ☎72-1177
- 開館＝10:00～18:00
- 休館日＝毎週月曜日
- HP＝<https://www.city.kushima.lg.jp/library/index.html>

新刊情報

- さくらのまち(三秋 緋／著)
- 青嵐の旅人 上下(天童 荒太／著)
- 森にあかりが灯るとき(藤岡 陽子／著)
- 青姫(朝井 まかて／著)
- 浅草寺子屋よろず曆(砂原 浩太郎／著)
- アラベスケ連藤周作初期エッセイ(遠藤 周作／著)
- 荒地地の種(江上 剛／著)
- 海賊忍者(諏訪 宗篤／著)



「本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む」
かまこ、みくのしん／著
生まれ一度も読書したことのない男が本を読むと…？「走れメロス」などの名作を友人と楽しく会話しながら読む。「変な家」の著者・雨穴の短編「本棚」も収録。本が読めない理由も紹介する。『オモコロ』掲載を書籍化。



「ビーチサンダル号海へ！プラスチックゴミから船をつくった少年」
「R」ロッキング・コバパリー／文
ケニアのラム島に住む少年ジユマは、海岸に落ちているビーチサンダルで船をつくろうと思いつき…。プラスチックゴミを思いもかけない方法で活用し、砂浜の美化もかねた、小さな島の大きな奇跡の物語。

図書館からのお知らせ

My Favorite Book

お気に入りの本を市内の小学生に紹介していただき、10月半ばより展示・貸し出しをします。面白い本がいっぱいです。ぜひ手にとって読んでみてください。



市長コラム

春夏秋冬

日本には四季があり、南から北へと季節や自然の移り変わりが心を和ませてくれます。今年も晩秋を迎えましたが、温暖化の影響なのか、日中の暑い日が長く続きました。紅葉の見頃が遅れるのではないかと心配していますが、西日本では平年並みか遅くなる予想とのことである。先日、西米良村の元村長である黒木定蔵さんご夫妻が串間を訪問され、お世話になったメンバーでささやかな慰労会を開き、黒木元村長の長年の「苦労」と思い出話に花が咲く。今はブドウ栽培をされているとのこと、収穫したブドウを試食させてもらいましたが房が大きく、実は甘くて最高である。黒木さんの息子さんはJAを退職後、ゆず栽培を始め、今はその手伝いも忙しいとのこと、暇がないとのこと。



黒木定蔵元西米良村長（一番左）

を新たに再出発される意気込みに感激する。
長年付き合ひのある盟友たちが現役を終えていく中、私も終活を考えていたが「負けてなるか」と先日、柿を植えました。桃栗三年柿八年という「何事にも結果が出るまでには相応の年数がかかる」意味のことわざがありますが、あえて柿を選択。気持ちを込めて植えました。春に芽を吹き、夏に花が咲き実をつけ、秋に色が付き収穫となるのが楽しみです。春夏秋冬、日本の四季に合わせた喜びに夢を膨らませつつ、黒木さんのように私も人生に花を咲かせたい。